揺さぶられっ子症候群とは？

揺さぶられ・打撲によっておこる脳障害です

これは、小児、特に乳幼児の体を揺すったため、あるいは、揺すったあと投げ捨てられて頭部を打撲することなどによって脳組織に加速度損傷が加わり、結果、頭蓋内に出血を起こす、いわゆる外傷性脳障害の総称をいいます。もちろん重症な場合は死にいたります。

欧米では30年程前から小児虐待との関連で広く認知されていますが、最近わが国でも良く聞かれるようになりました。

原因は赤ちゃんが泣きやまないため、親が赤ちゃんの身体を強く揺さぶるため、赤ちゃんの脳の血管が切れて脳内出血をおこすことによるものです。

しかし、最近は揺さぶる行為そのものよりも、その後に赤ちゃんを放り投げた時の打撲による衝撃の方が問題ともされています。

主な症状は

症状は網膜出血、硬膜下出血またはクモ膜下出血、体表面の外傷が軽微または無いことなどで、数分から数日かかって症状が出現することもありますが、意識不明や呼吸障害、頭蓋内圧亢進症状、揺すった病歴，虐待の証拠、頭囲拡大などが診断の基準となります。

幼児虐待の多くは二歳以下、特に乳児に多く、本症状群もほとんどが乳児で平均五～六ヶ月頃が最も多いようです。

首が座らない子供を揺すったりは論外です

さて、虐待とは別にお父さんなどが赤ちゃんを「高い高い」などすることで本症がおこるというショッキングな事も判明し、他に赤ちゃんを背負ってのジョギング、コインで動く乗馬の遊具、ジェットコースター、さらに不都合なチャイルドシートの使用などでもみられることがあります。

首が座らない子供を揺すったり「高い高い」は論外で、首が座っていても頚部（けいぶ）の筋力は弱く、頭部を支える力が弱いため揺するべきではありません。人によって力の入れ具合も違うのですから、ちょっとのつもりが子供にとって大きな負担となることもあるのです。だからといってあまり神経質にならず、もちろん二、三歳を過ぎた健常児なら「高い高い」は問題ありません。

ただ、あやしているときに途中で頭をぶつけたり落としたり、泣き止まない、言うことを聞かないと怒って投げ飛ばしたりしないようにしましょう。イライラしているときは子供に近づかない、接しないなどの気配りも必要です。

＜聖マリア病院　橋本　武夫＞